

Title	英国田園都市運動の発生 (下)
Sub Title	
Author	奥井, 復太郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1922
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.16, No.12 (1922. 12) ,p.1724(90)- 1743(109)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19221201-0090

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

點は他日補遺するの機會があるであらうと思ふ。

の權利の廢止が暗示されてはゐなかつたか何うか。唯、地代に對する人類の共有の權利と云ふ單純な教義は明かであつた。然るに Dr. McGlynn は、議論の焦點となつた土地私有の廢止と云ふ思想を、教會の長老達に對して否認した。そこで長老達は彼に、地代に對する共有權と云ふ經濟的信念を許したのである。

Dr. McGlynn は、經濟的地代の本質及其租税に含まれた一般的眞理を世人に了解せしむる事業に於いて、Henry George の有力な援助者となつた。そして一九〇〇年一月七日ニュー・ヨークに遊いた。(十一、十一、十一)

(附記)本稿は土地社會主義研究の序論として、Natural Taxation の主張者の一部分を——嚴密にセレクトすることなしに紹介したに過ぎない。而も最後に述べべき著者であつた Thomas G. Shearman, 1834-1900 は都合によつて割愛する。その他、Physiocrats, Thomas Stence, O'Brien, William Ogilvie, Alfred Russel Wallace, Thomas, Paine Herbert Spencer 等の諸氏には全然言及しなかつた。是等の不備の

英國田園都市運動の發生(下)

奥井復太郎

四

多方面の改革家であり一つの特色を持つた十九世紀の理想家であつた James Silk Buckingham に依つて現はされた一書 National Evils and Practical Remedies (London, Peter Jackson, St. Martin's-le-Grand. 1849) は失業者を吸収する手段として一つの模範的都會を建設する爲めに『勞働と技術と資本との結合からなる大原則』を推擧した。J. S. Buckingham は大旅行家であり平和や自由貿易並びに禁酒、公衆圖書館の設立、

奴隸廢止等の熱心なる主張者であり、又 Athenaeum 紙を創立し Sheffield 選出の國會議員であつた。

彼の計畫によれば先づ Model-Town Association と云ふ會社が勅許又は議會の法令で發起人の責任を限定して設立される。此の事業は政府から何等の補助を受けない私人的企業であつて其の目的は一萬エイカアの土地を購入し其の内の一千エイカアの面積の上に一萬人の人口を有する都會の建設を企つるのにある。此の都會は時の若き女皇の御名に因みて Victoria と名付けられる。都市計畫は豫め定められて工場並びに一般住宅を設備し後者の賃料には一年に五磅乃至三百磅の等級がある。凡べての建築物は此の會社の所有財産で會社は更に工場並びにこの都會の周圍にある九千エイカアの農耕地をも所有し管理するのである。従つて同會社は唯一の土

地所有者であり雇主である。Purdon 氏は之れを以つて『共產主義の弊害を避ける』爲めに企圖された計畫の中では寧ろ奇妙な分子であると述べてゐる。が此處では産業は一日八時間勞働制を採用し勞銀は一定の標準に依つて支拂はれる。又人口の過度の密集と云ふ事は無く兒童には醫療施設や哺育設備があり教育は無償を以つて施される。公衆浴場、公衆食堂、公共洗濯所を具へ又 Buckingham の持論の一つであるが酒類、武器、煙草は許されてゐない。

此の會社は三百萬磅の資本金で一株二十磅の株式に分割されるが其の資本金の内一百萬磅は農工業に使用せられる。配當は利益金の内から支拂はれて其の率は一割に制限されてゐる。この都市に住居しない者も此の會社に投資しうるが此の都市の住民は皆少くとも一株でも所持してゐなければならぬ、故に必要に應じては賦

拂の方法による事をうる。配當を支拂ひ凡べての必要の積立金を控除した後で利益金に殘餘があれば其は其會社の役員の間に分配せられる。

彼の考案した都市設計は正方形の形で樹を三つ組み重ねた様に區劃せられ中央を占める一番小さい正方形内には公共の建築物や其他立派な建物があり其の外側即ち中間に位する正方形内には仕事場用の、屋根のある拱廊があり一番外側の正方形内には一千軒の家と庭園とがある。Manufactories は『勞働階級の人々に廣々した野外の空氣を充分に享樂させる爲めに都市の外縁に最も接近した所に建てられる。』

斯くの如く充分に計畫された提案が何等實際上の結果を齎さなかつたと云ふ事は一部は計畫者自身の性格に基因し又一部は英國人の氣質即ち投機的性質や無制限の利益を得る見込がなければ單なる理論的試験的提案に乗らないと云ふ

事實にもよるのであるか Purdom 氏は更に有力なる原因として Buckingham がその主張を唱へた當時程、不衛生極まる都市の害悪や勞働階級の生活状態に對して全然無頓着な時代は歴史上他に無かつたと云ふ事を擧げてゐる。Buckingham の性格に就しては Purdom 氏は Dictionary of National Biography を引用して 彼は餘りに計畫が多過ぎて爲めに反つて成功しなかつた事を認めてゐる。

彼の著書は種々の批評を受けしたが其の當時の状態の慘憺たるを思へば彼の主張は寧ろ驚く可き程實際的であつて且つ空想的な不合理性に乏しいものであつた。『田園都市』の思想を實際的企圖に齎らした Howard 氏の計畫は Buckingham の思想に因由したものでなくとも後者の計畫は正に『田園都市』の思想の源と認められる價値を有してゐる。(Purdom: The Garden City.

九一(二頁)

五

Buckingham に次いで田園都市的計畫の歴史に上る者は Dr. Benjamin Ward Richardson である。彼が一八七五年に Brighton に催された Social Science Congress の Health Department で讀んだ一論文は、彼が Hygeia と云ふ名稱を與へた一つの『健康の都』(City of Health) に就いて可なり詳細に互つて敘述してあつた。(Hygeia: A City of Health. Macmillan & Co., 1876) 彼はかゝる都市を建設する實際的企圖を有したわけではないが其の考案になる計畫の諸點の實行しう可きを主張し其の採用を唱へた所より比較的に興味の多いものがある。Purdom 氏は彼の著書から直接に彼の主張を引用してゐるが今その要點を擧げてみる。

彼の著書の目的は個人の最大の長命と最小の

一般死亡率とが兩立する完全な衛生状態を出現し得る爲に、科學の知識の援助によつて人間の自由意思の働を待つて形成、維持せられる社會の輪廓を理論的に示すにあつた。一年に人口千人に對して約五十人乃至約五人の死亡率を持つた都市を建設しうると説いた Edwin Chadwick (當時の著名なる衛生學者であり衛生改良論者であつた人)の主張に基づいて Richardson は最小の死亡率を示す都市の施設を考案し其の當時實行しうる知識技術を以つて天然の資源の豊かでない社會に、過去に得られた科學的知識の指導の下に「極めて自然的な標準に達せざるも其の點に近接しうる生活力」を得せしめんとするのである。

彼が計畫する所は大體次の如くである。Hygeia と呼ばれる、彼の考案した都市は勿論新しい基礎の上に建設せらるゝのであるがその大部

分は現在の都市の模倣しうる程度の者である。其の人口は十萬人、二萬の家屋が四千エイカアの地所の上に建設される。故に一エイカアに對して二十五人の平均であるが、家屋の性質が人口の均分的分布を確保せしめるが故に都市の人口は人口稠密の危険より保護せられるのである。街路の組織は東西に走る三條の大道があり其の各大道の下に鐵道が布敷せられる。南北に走つて此の大道と直角に交る街路其他の並行路は皆何づれも幅員の廣いものである。是等の街路には勿論街路樹を植つけ住宅の背後の空地には庭園が設けられる。街路の塵埃は毎日路傍の口孔から地下道に洗ひ去られて下水と共に都市を離れた遠方の目的地に送られる。

家屋は空氣の流通をよくする爲めに弓狀に設計され煉瓦を用ひ内部の壁にも磨き煉瓦を用ふる。廚房は家屋の頂に設けられて凡べての煤煙

を消滅せしめ家屋の内部は蒸汽装置と暖爐とによつて温める。

此の都會には飲酒店煙草店は存在しないが公共の洗濯場、游泳場、病院、圖書館の設備はある。貧民の子供は溝で遊ぶと云ふ事はなく彼等も美しい庭で遊びうる施設を行ふのが Richardson の計畫した都市の形體である。(前書二一四頁)

六

他方製造工業の方面に就いてみれば一八〇〇年にかの Robert Owen が New Lanark に於ける計畫を創めとして、労働者に衛生的な生活状態を與ふる事の利益を認め大工場主の手によつて、自家の労働者の爲めに小規模の工業村落 (Industrial Village) を建設する企圖が屢々行はれた。密集し過ぎた都會から田舎に工場經營を移した第一の計畫はアルバカの製造によつて産を作つた Bradford の Sir Titus Salt の企圖であ

つた。彼れは一八五〇年に至つて事業擴張と共に工場を Bradford から移轉せしめんとして Shipley の河上を營る Aire 河畔に風景と新鮮なる空氣を具へた住宅地として最も適した一地を求め、一八五一年より着手して三千人を收容する八百戸の住宅と教會、圖書館、救貧所、等の建築物が設備せられた。この村落は一八五三年 Saltaire の名稱の下に開かれた。

此の計畫は極めて成功せるものであつて住宅の設備も充分にして其の賃料も労働者の資力の支出しうる程度で當時の他の状態に比較すれば明かにこの村に於ける生活状態は理想的であつた。

此の計畫に相似た運動は可なり澤山あるが其内最も著明なるものは Port Sunlight と Bournville の兩者である。

Port Sunlight は一八八七年 Sir William H.

Bournville の村落は George Cadbury が一八

Lever の手に建設された。彼は新しい工場と自家の労働者の爲めに模範的の村落を建てる爲めに Birkenhead の外方に一エイカア二百磅の割

で五十六エイカアの土地を求めた。此の村は彼の會社の財産でその使用労働者の爲めにのみ存在するものである。村及び住宅の設計は共に立派なものであるが家屋の賃料は地方税を加へて一週間三志六片乃至七志六片で此の額では僅かに維持費と償却積立金に充當せらるゝに止まり投入資本の利子は雇主がこの村を以つて労働者と協力の Prosperity sharing の形體と考へてゐる故に別に賦課せられない。

此の計畫は事業の盛大と共に擴張し英國に於ける、自家の労働者の幸福と大工業經營の利益との一致を示す最も顯著な實例と認められてゐる。

八九年に Birmingham から彼のコ、ア製造所を此の地に移した時に創まつた。彼の計畫は單に自己の使用する労働者にのみ良き住宅を供給するのでなく Birmingham 内又は近傍の労働者階級にもその利益を及ぼさんとするものである。

『自分の庭を享樂しうる様な土地に人々を住はせたい』と云ふ昔からの希望を實行する Cadbury は村を設計して多くの住宅を建てた。

最初は是等の住宅が九百九十九年の借地権付きで賣却せられたが投機を奨励した爲めに住宅の賣買は廢止せられこの村の總財産は今では Cadbury の手から Bournville Village Trust の手に譲られてゐる。土地の面積は六百十二エイカア其内百三十八エイカアに建物が建てられ九百二十五戸の住宅は地方税を加へて一週間四志乃至十志の賃料で貸される。是の賃料は投入資本に對する四分の利子として上記管理團體の手に

入る。學校、公會堂、禁酒旅館 (temperance inn) を設備してゐるが、此の村は實に建築及び設計の模範として成績の佳いものであつて Cadbury は此の計畫が彼の事業に於いて利益になつてゐると述べてゐる。

是等の模範的村落の實際的例證は都市の改造を行はんとする衛生改革者や社會改良家の努力と相俟つて一八九八年に至つて過去の經驗を基礎に新しい都市を建設せんと企てた Ebenezer Howard 氏の提案の路を用意したのである。十九世紀の末、丁度人人が從來になかつた程熱心に現代都市の問題に没頭した時 Howard 氏は Owen, Buckingham & Village Association の暗示並びに上記の計畫が豫言した所の提案を作り上げた。而して彼の倦まざる努力と時機の熟せるのとは此の提案をして成功せしめた。以下 Howard 氏の提案と其具象化たる Letchworth の

田園都市の設立を順次觀察して行く事とする。
(前掲書一四一六頁)

七

Ebenezer Howard 氏は田園都市の建設を Tomorrow: A Peaceful Path to Real Reform (一八九四年ロンドン出版) の小著に於いて提案した。此の著書は一九〇二年 Garden Cities of Tomorrow と改題されて其の第三版を刊行した。

Howard 氏が此の書中に於いて説く所は近代の技術、衛生學の最高の方法を利用してあらゆる階級の人々に衛生的な住宅を供給する、人口三萬二千人の理想的都會を英吉利の農村地方に建設せんとする試みである。

散在的な農村地方に密集し過ぎた都會の人口の移動を組織的に行ふ爲に「現在純農業的の土地六千エイカア」を一エイカア四十磅の割或は二十四萬磅の費用で購入し、之を先づ第一に債

券所有者の擔保として第二には其處に建設せらる可き田園都市の住民に對する保證として信任する。此の地所購入の目的は大體三つある。第一に工業労働者により高い購買力のある賃金を支給する仕事を與へる事第二に製造工業家、諸種の共同組合、建築家、技師、建築業者、各種の機械技師其他各種の職業に従事せる者には彼等の資本と技能とに對して新しく且つ彼よりも良き事業を見出しうる手段となり、第三にその地所に現在生活してゐる農業家又其處へ移住した人々に對しては手近かな所にその生産物の新しい市場を求めうるの便宜とする事である。約言すれば其の目的はあらゆる種類の凡べての労働者の健康と愉快との標準を高めんとするものであり、此目的を達しうる可き方法は都會生活と農村生活との健全な自然的の且つ經濟的の結合によるものであつて其の結合を上記の如く求められ

た土地の上に建設せんとするのである。

Howard 氏が其の書中にあげた都市設計の細目を考察する事なくしてこの都市の行政的方面を考察すれば最も興味深きは彼の rate-rents の計畫にして、彼の計畫になる都會が他の都市自治體と異なる點の主要なるものである。其は「此の都市の全収入は地代 (rents) から得られる事である。此の著述の目的は該地所を借りる各種の借地人から非常に合理的に其の支拂を期待し得可き地代が「田園都市」の金庫に拂込まれ、ば次の金額を支拂ふに足ると云ふ事を示さんとするのである。即ち(一)該地所を購入するに要した資金の利子支拂(二)元金償還の爲めに供へられる償却積立金の用意(三)他の都市又は地方自治が強制的に賦課した地方税を以つて普通建設し維持して行く事業の建設及び維持の爲め(四)(債券償却の後)老年々金、災害、疾病保

險等の目的の爲めに用意すべき多額の剰餘金」等に當てられるのである。

故に建築用地に對する賃貸借契約はかゝる財産に關して賦課される地方税、國稅、その他の課税を凡べて借地人が支拂ふと云ふ普通の契約に依らずして反對に土地所有者が収入の全額を(一)債券利子の支拂(二)債券の償還(三)都市の公共的目的に適用される公共基金の積立に當てると云ふ契約をするのである。

都市の管理は rate-renters によつて選出され管理委員會が之れを執行する。

Howard 氏の著書の重要な點は彼の提案を今日の社會問題の多くを解決する Master-Key として主張する所にある。彼の提案によつて「都會と農村とを結婚せしめてこの結合から新しき希望、新しき生活、新しき文明を生み出さん」とするにある。

大都市に人口が集中する原因に就いては細論する事なくして Howard 氏は是等の原因を一括して attractions (引力)とした。換言すれば都市は自己の方に人々を引き着ける磁石の様なもので、之れと同時に農村もかくの如き磁石ではあるが社會に及ぼす引力は遙かに微弱である、故に彼が提案する救済策は「都會と農村の磁石」即ち都會生活と農村生活を新しく結合した社會を作らうとするにある。(三個の磁石)のダイアグラムは Purdom 氏の「田園都市論」二十一頁に轉載されてゐる)

彼は更に經濟的商業的財政的見地からこの計畫の實行性を力説してゐるが前述の James Silk Buckingham の計畫と相似たる點は此の計畫を國家に社會主義的施設の一部として行はしめるのでなくして business & philanthropy とを併合した私人の手によつて行はる可きものとし更

に計畫者が此の企圖を國家的規模に於いて實行せんとする努力を警めて小規模を以つて始む可きを説いてゐる。(尙ほ Buckingham の主張との相違並びに類似點は Purdom 氏の「田園都市論」二十二頁に列擧されてゐる)(以上前書一七一―二二二頁)

八

Howard 氏の此の著は非常に盛な批判を受け、豫期の如く多くの人々は之れを一個の戯談として取扱つた。彼の都市設計は餘程人々の興味を起した様で一八九八年十月十九日のタイムズ紙は「思附きの面白い計畫である」と呼んだが更に「唯だ之れを實現するのが困難である」と附加してゐる。

然し識者は此の著書の中に説かれた都市改造の實際的手段の可能性を認めた。都市の人口密集の弊害と農村人口の激減とは既に屢々嘆せら

れてゐた。然し Howard 氏の著書が現はれる迄ではこの問題に對してかくも美しく、實際的な且つ時宜を得た暗示を示したものがなかつた。殊に彼が撰んだ Garden City と云ふ名が幸福にも直に人々に、他の模範的都會の有するわかり難くい又忌はしい名稱の與へる所とは異つた觀念を與へた。

是等の原因から此の思想が一層一般的となつて彼の著書の公刊後八ヶ月を経ずして Garden City Association が成立した。此協會の目的は講演によつて Howard 氏の計畫の討議を行ひ『終局には必要と思はれる修正を施して Howard 氏の計畫に従つて實際的計畫の立案』するにあつた。この協會は種々、社會改良論者に訴ふる所あつたがその成立後三ヶ月にして Howard 氏をして次の如く云はしむるを得た。即ち『この協會は其の會員の中に製造工業家、共同組合經

營者、建築家、藝術家、醫師、政治家、法律家、商人、僧侶、London County Council の會員 (Moderate and Progressive) や、又社會主義者も個人主義者も Radicals も Conservatives も包含するに至つた』。

此の協會への釀出金は一志で最初の二年間に釀出せられた金額は僅に二百四十一磅十三志九片を越へなかつたがその會員は何づれも熱心に田園都市の實現を信じてゐた。新しい都市の諸問題——土地所有權、住宅、勞働、設計、建築教育、酒類取引、製造工業等の諸問題——に關する委員會を設け一方敷地撰定委員會はその敷地の問題に没頭した。

一九〇〇年五月勿々協會は次の様な決議をした。即ち Garden City, Limited と云ふ名稱の株式會社を設立する事、其の株式資本金は五萬磅、第一回株式發行は五千磅、五分利保證付累

積配當、但し都市住民を代表する管理者團體の意向により拂戻しう可きも斯くの如き場合には株式所持人は上記の累積配當に加へて一割のプレミアムを受取る事等であつた。然しこの決議は時機尙早で、直に田園都市の成立を開始せんとする計畫は中止に終つた。

一九〇一年に田園都市協會の幹部に更迭があつて以來協會は其實際的色彩を濃厚にするに活動も非常に増大した。斯くて Bourville に於ける Cadbury の村に會合を催して其の提案を廣く社會に問ふ事となつた。此の會合の目的は Birmingham より Bourville に工場を移した Cadbury の計畫の視察、大都市より新しい地方に工場を移轉する事の損失と利益、地方官廳其他の組織がかゝる運動と協力する程度、新都市建設に際して製造工業家及び共同組合經營者とその地方に移動する事に對して有する希望性と

可能性等に就いて調査する爲めであつた。

一九〇二年七月には第二回の會合が Liverpool に近い Port Sunlight の W. H. Lever の村で行はれたが、此の二回の會議は是等の村落に於ける實際的成功を具體的の例證とした爲め田園都市運動の宣傳に極めて決定的な効果を與へた。

此の事は田園都市計畫を國家的事業としなないで私人的事業とした事並びにその計畫の經濟的基礎の簡單であると云ふ事と共に此の提案に多大の信用を與へた三つの要素の一つと考へられてゐる。

私人的事業に就いては彼等は國家政府の手に委ねて何等効果を擧げ得ざるよりも現在の立法の許容する範圍内で行ひうるが故に私人的經營として事業の進捗を計るの利益を認めてゐる。

田園都市計畫の提案の經濟的基礎に到つては

誠に此の計畫と最も緊切な關係を有するのみならずこの運動の實際的性質を容易に認めさせた原因となつたものである。その經濟的基礎とは Howard 氏の所説が Buckingham 其他の先驅者の所説に優れる點であつて新都市の發展に伴ふ土地價値の増加に關するものである。以前の主張は未だ土地價値の騰貴と都市發展との關係が明白でなかつた時代になされたものであるが其後各種の土地改革論者によつて土地の unearned increment の觀念は Howard 氏がその著述を爲す時には一般の理解する所であつて、たゞ何人にその所得の不勞的增加が屬す可きやに就いて實際的の解決を見てゐなかつた。然るにこの unearned increment を田園都市の財政的基礎であつて、この關係を充分に考察してその意義の重大なるを高唱したのは一九〇一年に田園都市協會の會長となつた Ralph Neville 氏であつ

一九〇二年七月十六日に資本金二萬鎊を以つて Garden City Pioneer Company, Limited が成立した。此の會社の主要なる目的は Howard 氏の所説に基いて工業に従事する人口を地方に適當に分布し合衆王國の何れかの地に「田園都市」とも云ふ可きもの、即ち Howard 氏の計畫並びに其の修正に基いて農業工業商業並びに住居の目的となる都會又は settlement を建設する目的を以つて之れに關連せる各種の調査を行ふものである。

此の計畫に對しては多くの好意が寄せられたがその發起書は多大の興味を惹いた。其が資金募集の條件として掲げた所の大様は次の如くである。即ち現在の狀態では此の會社の株式所持人は配當による利潤を得る事が出来ない故に決して投資者に對する普通の勧誘を致す事は不可能であるが目的の會社が成立せる時には此の會

た。一九〇一年の Bournville 會合の席上で此の點に言及して都市形成の後土地の時價騰貴より生ずる利益は田園都市にありては私的投機業者の財囊を重くせずして市民その者の利益となるものであると述べてゐる。此の點が誠に Retention に計畫が具體化するに至る迄完全を保ち得た提案の健全性を示すものである。

一九〇一年十二月の終りになつて同協會は再び初期の實際的計畫を遂行する決定をなし、敷地を調査し之れを得るに必要な基金を擧げる爲めに準備の會社を設立する事となつた。翌年の六月 Holborn Restaurant の Crown Room に於ける會合は敷地を得る爲めと之れを將來田園都市として發展させる計畫の爲めに Pioneer Company の設立する承認が與へられた。(前書二二―二七頁)

九

社の株式所持人は新會社の全額拂込の株券を、(一)此の會社の株式に拂込んだ金額と更に(二)拂込の日から新會社の全額拂込の株券の割當を受ける日までを計算して四分の利息をそれに附加した額に等しい金額との總計と同額丈けに額面金額で取得する事が出来るのである。又若し目的の會社を作るに必要な資本の輸出に失敗すれば此の會社の資本は一部分或は全部消耗する事となる事を注意してゐる。

此の會社の二萬鎊の資金は同年の十二月以前、發起書の發表後約四ヶ月にして募集し得た。斯くて直に敷地の撰擇を開始したがこの撰擇は密かに行はれその交渉はこの企畫を未だ極めて危ぶんでゐる地主などの爲めに可なりその進捗を妨げられた。第一田園都市建設の敷地となるには次の六つの條件を具備する事を必要とした。

- (一) フリー・ホルドの土地で圓形をなし
四千乃至六千エイカアの面積を有する事
- (二) 鐵道の幹線を取り入れてあるか又はそ
の附近にある事
- (三) 成る可く水運の便のある事
- (四) 經濟的に排水設備を設けうる事
- (五) 完全なる水の供給のある事
- (六) ロンドン又は他の勞働供給の大中心地
に近き事

此の條件に依つて數ヶ所の土地が撰擇取捨せられ最後に一九〇三年四月に至つて Letchworth の地所を見出した。此の地所は Hertfordshire の Hitchin (人口一萬の都會) に近い土地で其處丈では一〇一四エイカアの極めて狭い地所であるが周圍の土地を併合すれば四千エイカアの面積となり其他上記の諸條件の大部分を具備せるが故に先づ理想的の敷地と考へられた。かく

て會社設立後一年にして此の地所の大部分を購入する契約が多くの商議や交渉の後成立し全部の契約の成立は其れに引き續いて終つた。此の全地所は十五人の所有者の手から買入れられ其の代金一五五・五八七磅、全面積三八一八エイカア、故に一エイカアの平均代金は四十磅十五志の割合を示めてゐる。かくて Pioneer Company は此の購入を完結する爲めに更に五萬磅の資金を集める事となつた。

かくて First Garden City, Ltd. なる會社は公稱資本金三十萬磅を以つて一九〇三年九月一日に登録された。その設立後七日にして八萬磅の株式資本を募集する第一回の發起書が公にせられた。新會社の幹部は大體 Pioneer Company の幹部であつて吾々はその發起書の内に既に述べた來た所の田園都市建設の目的や Letchworth の位置を認める事が出来る。

發起書によれば新會社の目的は大體 Howard 氏の著書に述べられたる所に基いて現在の都市人口密集より生ずる種々の問題を解決するにあつて此の目的を遂行する上に残された唯一の路は新都市の形成であつた。かくて此の會社は Letchworth に三千八百エイカアに互る地所を購入した。此の地はロンドンを去る事三十五哩にしてロンドンよりケムブリッジに通ずる Great Northern Railway の沿線に當り Hitchin (Letchworth 西方一哩半) よりロンドン迄は汽車にて四十二分を要する又同鐵道會社は直に假停車場を設ける好意を示してゐる。

此の會社の計畫中特殊な點は都市人口を約三萬に制限する事であつて地所の大部分を農業用に利用するのその一つである。又此の計畫の實行によつて生ずる利益は(一)勞働者に衛生的な生活状態を供給する事(二)農村の近くに市場

を置く事によつて農業の刺激となる事(三)都會に接近してゐる爲め農村生活の倦怠を免れしむる事(四)都市の市民に彼等の集合より生じた土地價値の増加分が彼等の利益に使用せらるゝと云ふ事を知らしめて満足を與ふる事等である。更に新會社の發起書の中には此の地に於ける上水、排水、動力供給の設備や製造工業家住宅希望者に對する便宜等が説かれてゐる。然しその株式募集の方法を見ると、株主に對する配當は年に五分利保證附の累積配當を行ひ會社解散の場合には、配當の殘金に加ふるに一割を越えざる特別配當金を附して資本の返済を行ふ。

第一回の株式募集によつて得た資金は前記敷地の譲渡を受くる爲めに土地購入金として使用される。殘部の土地代金に對しては抵當權を設定する。かくて此の間此の土地に移住し得可き

製造工業家其他に對する交渉が成立し又此の土地の設計が完成すれば土地代金の殘額を支拂ふと共に更に將來發展の基金に當てる資金を改めて募集する筈である。Pioneer Companyの株主と新會社との關係は既に述べた通りである。

斯くて一九〇三年十月に Letchworth の内檢分が行はれた。この會合は英國に於ける國民生活の新運動の序幕として記念すべきものであつて廣々した靜寂の農村に一千名の株主は此の舉を祝する多くの實業家、政治家、社會改良論者、博愛論者等と共に集つた。最早十九世紀の住宅政策や建築方法は終焉を告げて新しき住宅が人々の生活の爲めに施設せらるゝ事となつたのである。

Pioneer Company は其の所期の目的を達し一九〇三年末に其の設立後十七ヶ月を以つて解散した。(二七一—三六頁)

次第に關しては一言も論じなかつた。此の點は徒らに議論論争を好む社會理論家の侵入を受け、提案そのものゝ存在を危ふくする危險より免れしめて彼の著書に描かれたる状態を理想として直截に人々の念頭に田園都市の概念と之の實現に對する感奮とを惹起さしめた、が一方に於いては凡べての人々に都市形成が漸を以つて進む發展的のものである事を忘れしめて一夜にして建設せらる可きものの如く考へさせたのである。(前掲書三七頁)

現實の田園都市は Howard 氏の理想とせる所とは非常に異つてゐる。現實の田園都市は理想のそれよりも不完全ではあるが又非常に人間的であつて紙上の都市に比して非常に人工的の弊を減じてゐる。(同三九頁)

故に都市計畫に關しては First Garden City Company の方針は極めて漠然たるものであつ

十

かくして最初の田園都市として Letchworth の基礎は出來た。此の地に建設せらる可き都市の名稱は豫選せられたる六つの名稱より株主の投票によつて決定する事とし、大多數を以つて Letchworth (Garden City) の名稱を選んだ。爾後此の地はこの名に於いて呼ばるべきである。(四四—四五頁) Purdom 氏は以後を「田園都市の發達」として彼の著書第三章に論じてゐる。筆者も此の稿を田園都市の發生に就いて考察するに止め First Garden City Company の爾後の活動には言及しない事とするたゞ次の諸點をあげてこの稿を終る。

C. B. Purdom 氏の見解によれば E. Howard 氏の著作の長所であつた所は又同時に短所であつた。彼は田園都市を既に出來上つたものとして描寫して都市形成が必然的に踏む可き發展の

た。既に Howard 氏の著書に就いて述べたと同様に此の會社の幹部は會社の方針の大綱丈けを確定してゐて其の他の細目に就いては極めて漠としてゐた。例へば土地所有權を保有するとか、貧民窟や人口密集の發生を防ぐとか、農村的風致を永久に保存すとか、都市の發展に就いては一定の都市計畫を有す可きであるとか云ふ點は此の事業の根本大則であるが彼等は此の四つの根本大則によつて都市の發展に適應して行く政策を立て様としたのである。故に此の會社の幹部の懷いてゐた政策は極めて伸縮性に富んでゐた廣汎な性質のものであつた。然しこの緩漫な政策の非難はこの事業の新奇と云ふ點からして寛恕されなければならない。(四〇頁)

都市設計に就いては Barry Parker, Raymond Unwin の兩氏の設計を基礎とする事にし必要に應じて多少修正する事とした。(四一頁及四二頁)

の設計圖)

かくて實際の事業は一九〇四年の夏より着手せられたが前述の如く田園都市會社は土地の所有權を有する丈で家屋の建築は私人又は他の會社に委ねた。その設計等に就いて一應會社の認可を要する事とした。(四五頁以下参照) 此の土地の最初の居住者は家族をつれた自由職業者並びに實業關係の人々であつたが彼等は此の都市の建設に就いて期待を有してゐた人々で實に先驅者としての危険を冒す精神を以つて集つたのである。一九〇五年に Healy-Graham Engineering Company, Ltd. 及び Garden City Press, Ltd. の兩會社が田園都市工業の先驅者となつて以來同七年迄の間に非常の發展をなした。Purdom 氏は其著の五十四頁に田園都市發展の歴史を一括し『十年後(氏の著書は一九一三年發行)の今日に於いては誤り得ざる独自の性質を

(Fors Clavigera. Letter x.)

田園都市の成立は地下のラスキンをして定めて會心の笑を漏さしめた事であらう。

最後に附言するのは田園都市に關しては之より先き一九〇五年に發行された A. R. Sennett 氏の Garden City in Theory and Practice 及び上下兩卷合せて千三百八十數頁に亙る宍大の著述がある内務省地方局有志編纂の名の下に明治四十年十二月に發行された「田園都市」はこの書に負ふものであらう。一九一九年に出版された New Ideals in the Planning of Cities, Towns and Villages の中に掲げられた諸種の參考書中には Howard, Purdom の兩氏の著書の外に Ewart G. Culpin, The Garden City Movement Up-to-Date(London, 1912)を發見しうる丈けであるが此の書は恐らく本稿に更に充分なる材料を供給しうるものと思ふ。(Patrick Geddes の

發揮してゐる」と述べてゐる。以上を以つて Purdom 氏の The Garden City の粗雜なる抄譯を終へる。

かのジョン・ラスキンが一八七〇年の頃親友なる Dr. Acland 並びに Dr. John Simon の兩者と共にロンドンの裏道並びに郊外の貧窮せる生活状態を嘆じて之れが救済策に就いて前兩者がかゝる不幸なる生活はロンドンの如き大都市には避く可からざる現象であると斷定したのに對してラスキンは答へた、『よし、然らばこんな大都市を無くしてしまへばいゝ』と。二人の友人は『君の云ふ所は非實際的の言葉だ。現在の状態ではかゝる大都市がなければならぬのだ』と反駁した。ラスキンは近代の議會議事に没頭してゐる人間に『目的の弊害の根源にふれない様な方策は何づれも實際的でない』と云ふ事を信せしめるの甲斐なきを感じて黙した

Cities in Evolution には此の本の表題が Garden Cities Up-to-Date となつてゐる(最近の状態に就いての材料を欠く點は筆者の最も遺憾とし且つ恥づる所である。(大正十五年十一月十三日稿了))

ミルとマーカンチリズム

榎本 鑛 治

「何人と雖も、富に就ては極めて正確なる觀念を有す」とは、John Stuart Mill の言である。彼に従へば、或術語の暗示する觀念は、實際の要求した所である。従て富とは何ぞやと云ふ疑問の如く極めて單純なる主題に就て、何等か有害なる觀念の混同が生起するであらうとは、殆